

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成30年度病虫害発生予報第1号(4月)について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

予報第1号

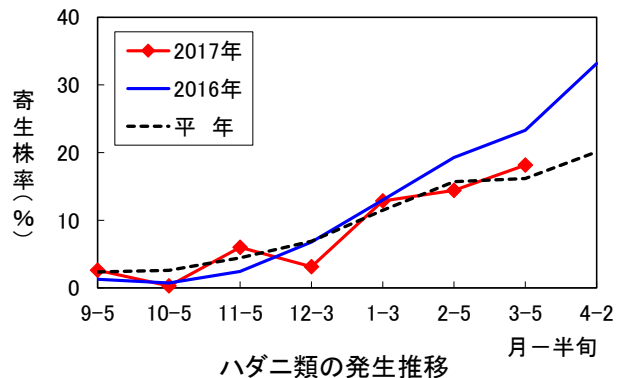
イチゴのハダニ類が増加しています

イチゴのハダニ類については、例年と同様、年明け以降発生量が増加し続け、3月下旬の調査では、寄生株率100%のほ場も見られました。

本ぼのハダニ類は、栽培期間中に外から侵入するものは少なく、ほとんどは苗に寄生して持ち込まれた個体が増殖したものです。そのため、ハダニ類の防除は苗及び親株の防除が重要です。今後、収穫作業が非常に忙しくなると思いますが、本ぼだけでなく親株の発生状況にも注意し、防除に努めましょう。



ナミハダニの多発により蜘蛛の巣が張ったようになったイチゴの葉



<予想される向こう1か月の天候(平成30年3月31日~平成30年4月30日)>

暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の気温は高い見込みです。

1週目は気温がかなり高く、2週目は気温が低い見込みで、期間の前半は気温の変動が大きいです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低20 並30 高50% 平年より高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成30年3月29日発表抜粋)

4月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	現況 発生量	4月の発生予報 発生量	
		平年比	平年比	前年比
かんきつ	ミカンハダニ	少	並	並
冬春イチゴ	うどんこ病 灰色かび病	少 やや少	少 やや少	並 並
冬春ナス	すすかび病	やや少	やや少	多
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	多

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。それぞれの条件は、少発生（－）、やや少（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

作物別発生予報

【果樹：かんきつ】

1 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

寄生葉率 0.5%（平年 2.4%、前年 0.6%）

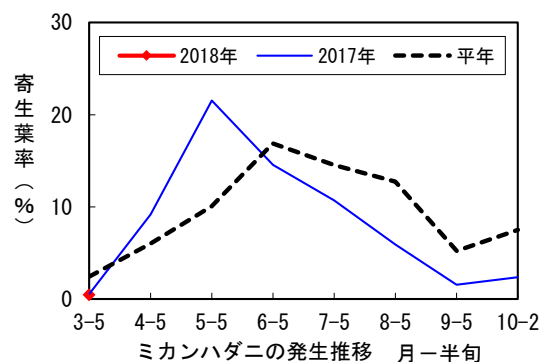
発生ほ場率 9.1%（平年 35.9%、前年 18.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている（＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用を避ける。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 5の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 発生量	4月の発生予報 発生量		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ そうか病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> 発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。 罹病葉は伝染源になるので除去する。
かいよう病	少	少	少	
かき フジコナカイガ ラムシ	—	やや少	やや少	<ul style="list-style-type: none"> 前年の発生量から予測した越冬量はやや少ないと推測されるため、発生はやや少ないと考えられる。 越冬幼虫に対して4月上旬までに薬剤防除を行う。
なし 黒星病	—	やや多	やや多	<ul style="list-style-type: none"> 前年の発生量は並であるが秋季の降水量が多かったため、初期発生量はやや多いと思われる。 薬剤防除は、開花直前から満開 20 日頃までが最も重要な時期である。 (詳細は発生予察技術情報第 21 号参照)

* (—) は未調査。なし、かきの発生量(予想)は2017年の調査結果及び気象予報から予想。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(—)。

発病株率 0% (平年 0.43%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

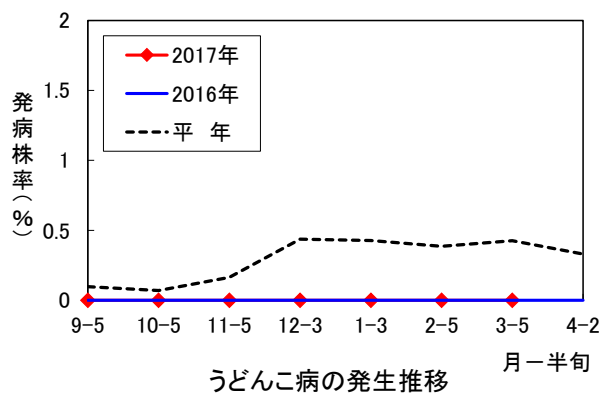
イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。

ウ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。

エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

オ 古葉かぎ後、葉液が葉裏や株元にもかかるように丁寧に散布する。

カ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 灰色かび病

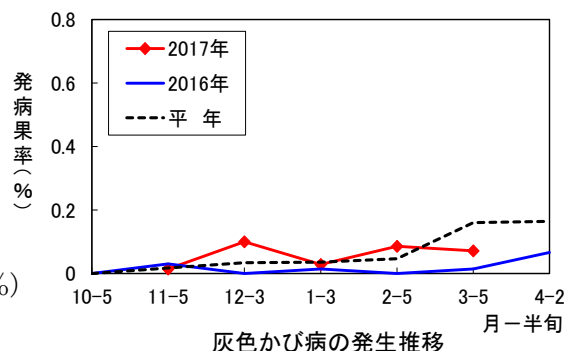
(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった。(—~±)。

発病果率 0.07% (平年 0.16%、前年 0.01%)



イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。
- ウ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。
- エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
- オ 古葉かぎ後、葉液が葉裏や株元にもかかるように丁寧に散布する。
- カ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【野菜：冬春ナス】

1 すすかび病

(1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや少、前年より多

(2) 予報の根拠

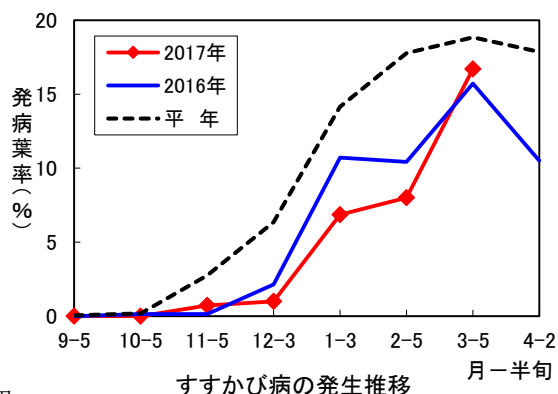
ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった。(－～±)。

発病葉率 16.7% (平年 18.8%、前年 15.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理に努める。
- イ 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
- オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- カ すすかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



【野菜：共通】

1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや少、前年より多

(2) 予報の根拠

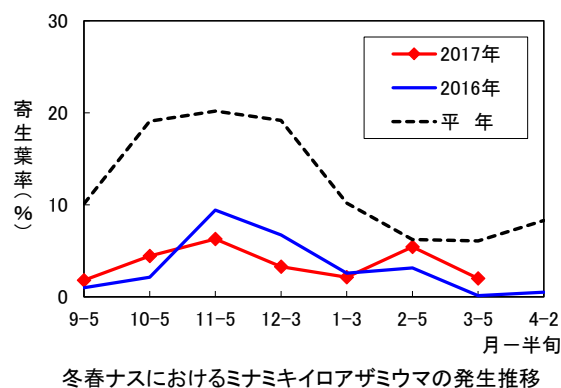
ア 3月5半旬調査の結果、冬春ナスにおける発生量は平年より少なかった(－)。

寄生葉率 2% (平年 6.1%、前年 0.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。
- イ 葉裏への寄生が多いので、ムラがないように薬剤散布する。なお、薬剤抵抗性が発達しないよう、同一系統薬剤の連続散布を控える。
- ウ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	4月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春ナス 灰色かび病	並	並	少	<ul style="list-style-type: none"> 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。 罹病果や罹病葉は、見つけ次第速やかに取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。

携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

福岡県病害虫防除所



最新の病害虫発生状況